



第 29 号

(年に 4 回発行)

編集発行

弘前学院大 学会  
報 委 員

印刷所  
(有)小野印刷所

### 平均寿命と健康寿命をのぼす もう一つの健康談話

学長 吉岡 利忠

まず図1、2を見て下さい。私達のからだの自然経過を健康と病気に至るまでを時系列的に示したものです。ある日突然に発症する病気もありますが、一般的には健康状態から徐々にグレーゾーンに移行し、そして黒色の部分に到達してきます。この図では、真っ白な(健康な)部分から真っ黒な部分へグラデーションをつけてながら右方向へ進んでいます。全体の長



さは図2において長い。すなわち、図1より図2の場合で寿命が延びていることが分かります。また、図2ではグラ

ディエンション期間が図1に比べて極端に短く、要するに病気になる期間が短いことを意味しています。病気になるのは仕方ないけれどもその期間を短くそして長生きしよう寿命を延ばしましょうということですね。

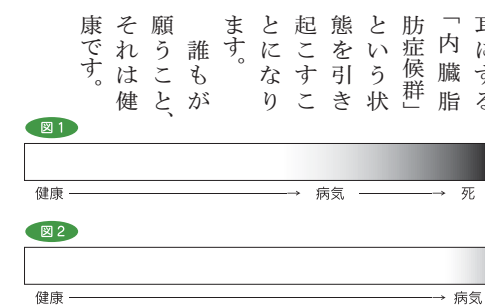
健康でありかつ寿命を延ばすことは「平均寿命」ではなく、「健康寿命」の延伸ということになるでしょう。さて、高齢化の現代では健康を保つには経費がかかること置けることが必要でしょう。毎日のように保健医療施策に関する報道がなされています。不健康な生活習慣を送り病気になるようになってしまった場合と、図2にあるように健康寿命を全うする直前

に床に伏せ医療を受けるようになった場合を考えると、果たして同額の医療保険の支払いでよいのかどうか疑問になります。支払い率などもその人の生活習慣状態のよしあしで変わってくるような気がしています。

青森県民は短命で平均寿命(健康寿命も)が他府県に比べて極めて短く、常にワーストスリーに男女とも入っている。この12月に厚生労働省から発表された平均寿命のデータでは、男女とも青森県は最下位

でした。「二日一個のリンゴは医者いらす」とは、よく聞くフレーズです。青森県人は、多分、他府県の人たちよりリンゴをよく食べる方だと思えますが、リンゴ生産量第2位の長野県民の平均寿命はトップクラス。リンゴを食するだけでは、どうも平均寿命を延ばすことができそうにもありません。青森・長野も気候条件はほぼ同じようです。この両県民で何が原因で何処が異なるのでしょうか?青森県は農産物・畜産物・海産物などの美味しい食品が沢山あり、からだにとつてヘルシ

「内臓脂肪症候群」という状態を引き起こすことになり。誰か願うこと、それは健康です。



この度、本学を含め弘前市内6大学(弘前大学・東北女子大学・東北女子短期大学・弘前福祉短期大学・放送大学学園)の参画のもとに、「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」が設立されました。これは、阿保理事長と吉岡学長が提唱し、弘前大学をはじめ弘前市内各大学の賛同を得て、設立する運びになったものであります。

この会の具体的な事業は、機関の連携・交流、地域貢献の推進、教員間および学生間の交流、広報および情報発信・国際交流・協力等幅広く推し進めることであり、今後、市内6大学がそれぞれ有しているアイデンティティを相互連携しながらお互いに高めあい、もって地域貢献に還元するところが大きいと期待されることとあります。



11月19日 弘前相馬市長へ協力要請

### 本多庸一とキリスト教(6)

学校法人弘前学院  
理事長 阿保 邦弘



本多、菊池、石郷岡らは若者らしい純粋さで、庄内藩への信義を守り抜こうとし、切腹を申し出るのであった。しかし、切腹は許されないと知るや、死をとして脱藩を図り庄内藩に赴くのだが、『津軽承昭公伝』によると、「・・・我

が志士等義心勃勃、慷慨悲憤訴ふる所を知らず、ひそかに脱藩して彼の使いととも庄内に至り、面縛して食言を謝し、共盟の士に甘心(思うままに処分する)せしめんとした。津軽藩もその義心を感じて黙許し、庄内にも食言を責めぬのみならず、志操の潔白を感じ、優遇反つて前日に勝った。」という。

津軽藩主も影からその義挙を嘉せられた。藩庁はその脱藩の罪を問わずただ改名を命じたのみで、彼らの帰藩は許されたのである。時に明治元年の暮れも押し詰まった十二月の末。徳蔵は本多庸一、喜代太郎は菊池九郎として、新年を迎えたのであった。

明治維新の終結は函館戦争である。旧幕府海軍副総裁榎本武揚は、軍艦開陽以下の精鋭艦隊を率いて函館に走り、五稜郭によって頑強な抵抗を試みた。明治二年二月から始まった函館戦争には、津軽藩も加わって出兵したが、本多は青森にあって参謀として働



礼拝堂のクリスマスイルミネーション

み出された。明治三年五月、弘前知藩事津軽少将承昭は朝廷の制度を遵奉し、衆知を集めて藩庁の政治体制と土地人民の治め方を改善するために新たに「会議局」を設けて、藩士中より事態に通曉するものを任命した。局長、副長を含め議員十名、補員八名で構成されたが議員の最年長は六十一歳の兼松成言であるのに二十四歳の

本多庸一が入っていたのである。本多の政治家としての第一歩であった。同年、藩中の有望な英才を選び藩の費用で横濱、長崎、薩摩、長州など先進各地へ派遣した。これは新時代に対応して英語や洋学を学ばせるためであった。こうして菊池九郎は鹿兒島行きを命じられ、本多は長州に派遣されることになった。しかし、本多にはこのとき海外遊学の志があったので、英語学習のために行き先を変更して横濱に赴いたのであった。

プロテスタントキリスト教が日本に伝えられたのは一八五九年(安政六)である。その前年六月、日米修好通商条約が締結され日本宣教の可能性がひらかれると、主としてアメリカのプロテスタント



キャンパスイルミネーション

(文責 齋藤昭事務局長)

(以下次号)

The 7th IACS

医療現場におけるコミュニケーション

2007(平成19)年11月17日、18日の両日、国際コミュニケーション学会第7回学術研究大会が吉岡利忠学長を会長として弘前市のホテルニューキャッスルで開催された。大会テーマは「コミュニケーション・科学―医療・福祉・政治・社会」であった。初日のシンポジウムでは、「医療とコミュニケーション―課題と展望」と題して、吉岡学長はじめ弘前大学、青森県立保健大学からの3教授がシンポジストを努め、医療現場、医療行政、医学教育、看護教育などについて有意義な討論があった。引き続き、吉岡学長による「いわゆるメタボリックシンドロームとは？」の基調講演があった。社会における対人関係のみならず、特に、



医療現場においては医療従事者と患者の関係におけるコミュニケーションの持つ意味合いは奥深い。二日目はイン

フォームドコンセント(説明と同意)、ガンなどの告知の問題、最近問題になっている企業の社会的・説明責任のなかのコミュニケーションなどについて特別講演および一般演題があった。この国際学会は隔年で環太平洋地区の研究者が集まり研究発表が行われるが、今回は日本地区の集まりであった。吉岡学長は本学会の理事でもあり、第1回大会から毎年基調講演をしており、2年前の学会では功労賞を受賞されている。

平成十九年度九月期の卒業式は、佐藤和博英語・英米文学科長の司会により、パイプオルガンの演奏と讃美歌合唱に始まり、中澤實郎宗教主任の聖書朗読、祈祷の後、吉岡利忠学長より卒業証書が授与されました。出席者を代表して吉岡学長より卒業生に贈る言葉が述べられ、パイプオルガンの音色が響く中、終始和やかな式となりました。

平成十九年度

九月期卒業証書授与式



式終了後には、卒業生に花束が贈呈され、出席者全員で卒業生の新たな旅立ちをお祝いしました。

2007年度  
弘前学院大学  
卒業証書授与式  
文学部 第三十四回  
社会福祉学部 第六回  
大学院社会福祉学  
研究科修士課程 第四回  
大学院文学研究科  
修士課程 第二回  
◇日時：二〇〇八年三月  
二十二日(土)午前10時  
◇場所：弘前学院大学  
体育館

文化研究所 ―活動報告―

本年度は、これまでに二回の講演会、一回のパネル展、そして弘前学院大学出身者教職員との会との共催で、「平家琵琶を楽しむ会」を開催しました。また、今年度最後の企画となる第三回目の講演会「看護・福祉と方言」の役割を一月二日・十四日より、本学二一五教室において開催します。講師は、大分大学教授の日高貢一郎先生です。学内・学外を問わずなたたでも自由に参加出来ますので是非おいでください。

平成十九年度地区別父母懇談会が九月の土・日曜日を利用して弘前・青森・盛岡の三会場で開催されました。従来九月から十月にかけて開催していた懇談会を、父母の方々のご意見をもとに開催時期を早めて、今年度は全会場が九月中の開催となりました。出席者は三会場合計で九十六名、出席率は全体の十二%でした。また昨年度に比べて、

個別面談では、実家を離れたアパート等で暮らす学生の日常の様子や、現在の学習状況並びに資格取得に関連した実習の説明に、多くの出席者が真剣に耳を傾けていました。三・四年生の父母の方々を対象にした進路面談では、県内外の就職情報や卒業生の就職先、就職活動の準備と心構えなど就職に関する質問・相談が多く寄せられました。一・二年生の父母の方々からも将来の進路を検討するにあたって情報を求める姿が見られました。日頃抱えている悩みや疑問について父母と教職員の間で熱心に話し合う機会として、

最後に、懇談会当日のアンケートでは様々なご意見ご要望をいただき、今後懇談会を行う上で大変参考になりました。ご協力いただきました父母の方々に御礼申し上げます。父母及び大学側の教職員の出席者は、次の通りです。

- 弘前会場 九月九日(日) 父母 五十四名 大学教職員 十五名
- 青森会場 九月十五日(土) 父母 二十七名 大学教職員 九名
- 盛岡会場 九月三十日(日) 父母 十五名 大学教職員 七名

父母と教職員の会主催 地区別父母懇談会報告

本年度第一回の講演会は、「看護の専門職化と占領軍による医療と看護改革」というテーマで、青森中央短期大学教授・ライダー島崎玲子先生にお話ししていただきました。戦後の民主化の流れの中で、アメリカをモデルとした看護の専門職化がどう形作られたかというお話しをされました。青森県における戦後最初の看護教育が合浦公園で行われたという興味深い事実も紹介されました。

「平家琵琶を楽しむ会」では、演奏会その他ワークショップも行われ、前田流の伝承者である橋本敏江先生から祇園精舎を直接ご指導していただくという得がたい機会にめぐまれました。

今後も地域文化に対するための活動を行ってまいります。皆様のご参加をお待ちしております。

（地域総合文化研究所 主事・藤岡真之）

英語・英米文学会主催の講演会が12月1日、1時から414番教室で開催されました。今回は北海道情報大学准教授、有道人(あるどう・でびと)先生をお招きしました。この日は『国際住民』に対し21世紀の日本・地方自治体のあるべき姿」と題して、お話ししていただきました。

講演の中心になったのは、先生が北海道の小樽で体験した、ある入浴施設での入浴拒否問題(「外国人お断り」という理由)と、その裁判の経緯でした。以下は講演の要旨。



講師 有道人(あるどう・でびと)

英語・英米文学会主催の講演会について

英語・英米文学会長 佐藤 和博

「外国人のような外見の人」なので入場を拒否される事がある。また、出版物においても、例えば外国人と犯罪を結びつけるような人種差別を助長する内容の雑誌が安易にコンビニで売られている。

(2) 入浴拒否をした入浴施設、それを放置した小樽市に対する訴訟の経緯としては、前者に関しては、地裁、高裁共に、損害賠償を命じてはならない。

(3) 海外からの移民が増加している現在の日本において、バリアフリーの社会を造るためには、政府、地方自治体の取り組みが重要である。また、「人種差別」、「人権侵害」に関する意識高揚も怠ってはならない。

# 実習体験について

看護学部三年 對馬 牧子

看護学部三年生は、八月から臨床実習を行っています。私は、小児看護学、精神看護学、地域看護学の実習を終え、現在は成人看護学の実習を行っています。

臨床実習Ⅱでは、弘前脳卒中センターの回復期リハビリテーション病棟で学んでいます。脳卒中による麻痺、言語障害などの後遺症をもつ入院患者に対して、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーなどの専門職がチームで医療を提供しています。看護師は他の専門職と協力して、身体、日常生活、社会活動、心理の各側面から患者を捉え、日常生活活動の援助、心理的支援、退院後の生活に向けた患者や家族への教育を行っています。

この実習では、患者を受け持ち、看護師をはじめとする多くのスタッフの方々と大学の教員の指導を受けながら、看護計画を立て、実際に援助を行います。私の受け持ち患者さんは歩行障害があるため、トイレまでの歩行、車椅子移動、入浴など、常に安全確保に注意が必要です。以前は不自由なく行っていたことが、突然の病気で後遺症を残し、一人ではできなくなってしまうということがあります。それほど衝撃的でした。つらいことなのを知ることができました。つらい時は看護によって支え、患者と一緒に新たな目標を持って、障害を持ちながらも社会復帰できるまでの手助けをすることができればと思います。

## 実習を通して成長しています

看護学部講師 工藤千賀子

看護学実習とは、学生が既習の知識・技術を基に、対象との相互行為を展開し、看護実践に必要な基礎的能力を修得する、という学習目標の達成を目指す授業である。これは、看護学教育の最大の特徴であると言える。

本学部では、基礎看護学の実習である一年次の「看護体験実習」で医療や看護の場の実態を学び、二年次の「基礎看護臨床実習」で看護基礎技術を体験する。その後、三年次から領域別実習で対象に合わせた看護について学ぶ。



「看護体験実習」は、入学後間もない時期に実施される。学生の社会性を養う目的で、実習は、施設の職員や患者とその家族の理解と協力の基に成立しているため、学ばせていただく姿勢を心がけること、学生と言えども一人の医療従事者としての自覚的責任ある行動をすることなどをオリエンテーションしている。学生は、施設の見学をしたり、患者とのコミュニケーションを体験して、その難しさや演習(学内実習)の重要性に気づき、看護学を学習する動機づけになっている。

保健師が住民の健康と生活を支えていることを学びました。看護は人の成長発達、老いの過程で、人々の健康の保持、病気からの回復のために様々な形で関わっている職業であることが理解できました。臨床実習は来年も続きます。将来の目標のために、三年生各自にとって充実した実習となるよう、力を合わせて頑張りたいと思います。



## 本学の実習紹介

### 精神保健福祉 援助実習を終えて

社会福祉学部4年 青山紗耶香



私の精神保健福祉援助実習は、精神障害者通所授産施設と精神科病院で行いました。

実習では、精神保健福祉士として援助していく上で大切な、自己覚知について考えさせられました。自己覚知は教科書上で学んだだけで、実際考えたこともありませんでした。そのため、実習中にははじめて自己覚知について悩み、考え

### 社会福祉実習Ⅰを終えて

社会福祉学部3年 渡辺あずさ



私は児童養護施設で社会福祉実習を行いました。私が配属されたのは幼児クラスで、入所している子どもたちや施設の職員の方々と関わりの中で、「一人との関わり方についてたくさん学べた」と思っています。子どもたちの性格はそれぞれ違い、私にすぐになつてくれた子どももいれば、そうでない子どももいました。また、実習生という立場をわきままえながら子どもたちと関わるように、実習中はそれぞれ子どもたちとの距離のとり方に注意が必要でした。私になつてくれている子どもは、子どもの方から積極的に話しかけてくれるなど自然に関わりが増え関係はより親密になっていきますが、そうでない子どもについても、私から話しかけない限り距離は縮まらず関わりがありません。子どもたちとの関わりで注意することは、距離を急激に縮めすぎないということです。子どもたちにとって私は親しくない人であり、近

院となつてしまう状況があるという事です。「退院したいが男性のPSWの人にはなかなか言えないこともある。普段の私は人には話しかけられないけれど、あなただと話しやすい」という患者さんと出会いました。その時私は、自分がPSWになつて、同じ悩みを抱えている患者さんを支援したいと、ますますPSWという専門職への道を強く目指そうと思いました。

## 2007「文章コンテスト」結果報告

文学部における「文章コンテスト」は、学生の皆さんの表現力、文力・文章力の向上を目指し、エッセイ・小論文を募集し、優秀作品を作品集「稔町リーフレット」に掲載して顕彰する企画です。審査は「このために選出された」「文学部ワーキンググループ」の教員があたります。

- ①募集文章 A部門 エッセイ(随筆) 1500字程度、テーマは「幸福あるいは「事故」
  - B部門 小論文 3000字程度、「調査小研究レポート」あるいは「読書レポート」
  - ②応募資格 本学文学部学生
  - ③審査 文学部ワーキンググループ
  - ④締切 2008年2月4日(月)午後4時
  - ⑤提出先 文学部事務室(3008)
- 多数のご応募を期待しています。この件に関するお問い合わせは、文学部の鎌田(211研究室)、または井上(311研究室)までどうぞ。

- 関係づくりの大切さも学びました。前期実習では、挨拶や質問など自分でも気づかぬうちに無表情になっていました。それでは場の雰囲気が悪くなるだけでなく、やる気も伝わらないので、後期実習では表情も意識するように務めました。その結果、後期の実習機関は職員の方との会話も増え、関係も良くなったように感じました。
- 私は、今回の実習を通して、人と人の関わり方を今までは違う距離のとり方という視点で捉えることができるようになりました。また、声のトーンや挨拶の仕方、表情などが人との関係に影響を与えていることを学べたことを、今後に活かしたいと思っています。

## 談話室

社会福祉学部 准教授 八戸 宏



温暖化の影響で雪が少ない。津軽では、雪の降り始めた時から春の訪れる日数を数え始めると聞かされて育ったが、自然環境のリズムが狂い始めているのは間違いないようだ。

社会福祉は、全ての人々が幸

せに生きていける社会を標榜している学問なのだが、社会生活の様々な場面で、福祉の望む社会と相反する生活環境の「破壊」が近年はとみに進んでいるような気がしてならない。報じられる様々な「不正」や人為的な「事故」の多くは、人間の「いのち」と「くらし」に直結するものが殆どで、人間尊重や人権遵守の姿勢は悉く欠落したものとされている。事件は、社会の病理の一面を表出しているだけに、多くの人々の健全な生活はゆるぎ

は、生き死にを直に、「不安」と共に感じた利用者(患者)の悲痛な叫びや、病を前にしてたじろぐ声にならない弱々しい人間に真摯に向き合う地道(かけひき)のないという意味がある。な仕事の連続だと思ふからである。

その昔、人を愛するということ事は、知らない人生を知る事だと学んだが、厳しさを増す一方の社会の中で、学生たちの将来の利用者との出会い(邂逅)がこのように知り方・方法であつて欲しいと心底から願っている。

今年も又多くの卒業生が旅立つ日が迫っている。



# 学祭実行委員を経験して

学祭実行委員 庄内 理恵

学祭実行委員とは、学生が主体となって学祭という大学の一大イベントを作り上げるとともに、学生同士や地域住民と交流を深め弘学を知ってもらうための役割を果たしている。今年度はオープンキャンパスと同時に開催することにより、弘学への入学を希望・検討している高校生にも大学のことや学生の姿を見せよう機会を頂き、私達学祭実行委員は昨年と異なる状況で戸惑いながらも昨年とは別の形で学祭を盛り上げよう準備を進めた。

今年度は先輩達の主導のもと、冬から準備をして芸能人を呼んでお笑いライブを行い前年度の入場者数を倍近く上回り非常に盛り上がった。その他の企画でも、カラオケやサークル対抗ゲーム、後夜祭の花火などを行い、本学学生はもとより学外のお客様にも楽しんで

ただ私達もやりがいをもって仕事ができ充実した内容であった。そのような経験を今年度は新一年生を加えた今年度の学祭実行委員は成功へのプレッシャーと昨年同様に楽しい学祭にしよう今年度の4月から活動を始めた。

今年度の学祭は、弘学の長い伝統を大切にしながら新しい歴史を重ねていきたいという思いを込めて「温故知新」というコンセプトに決めた。そして、想い・創り・奏でる「想・創・奏」をテーマに掲げメインイベントを県内のアマチュアバンドや本学学生によるバンドを集めライブを行う企画を立てた。そのほか、昨年好評だった各サークルによる模擬店、ゲーム、カラオケ、後夜祭の打ち上げ花火で学生や教職員、来場客やオープンキャン



想・創・奏

パスで来ていただいた高校から「楽しかった」という声を聞き、この学祭を準備してきた苦労が報われたと感じた。今年度の学祭が終わり、残務処理のち後輩に引き継いで私達は交代する。学生生活の楽しみである学祭は今後も続いてほしい。私達学祭実行委員は学祭を通して勉強だけでは得られない一つのプロジェクトを成功させるといふ経験を、社会活動を学ぶよいきっかけになった。

# 陸上競技部

社会福祉学部2年 京谷 拓真

陸上競技部は、昨年七年振りに復活し、今年正式なサークルとして認められました。二年生中心のサークルで人数が急激に増えてしまったため部長の私でも全員把握していません(笑)。ほぼ新しくできたサークルなため専門的な練習ができない、練習場所が確保しきれない問題もあります。しかし、様々なスポーツを経験してきたみんなで楽しく体力作りをしています。

今年度は、八戸ろみねこマラソン、秋田県の若美町メロンマラソンに私が参加しただけでなく、弘前アップルマラソンにサークルから五名参加し、陸上競技独特の緊張感を体験してもらいました。結果ではなく、楽しく走ってもらおうこと、完走してもらおうことを中心とした練習を行ったため、全員が完走

できたことが今年の大きな経験です。大会に参加できなかった人たちの体力がつきはじめ、少しずつ厳しい練習に耐えることができるようになってきました。来シーズンは競技場を使いた大会に出場したいと考えています。今年度は、大坂で世界陸上も行われ、少しずつ陸上競技がメジャーなスポーツになりつつあります。様々な可能性を持っている陸上競技、一人、一人の個性を出せるこのスポーツにみなさんも参加してみようでしょうか。



陸上競技部

# 入試広報センターだより

## 2007年度オープンキャンパスの改革

今年度のオープンキャンパスは、「本学キャンパスへできるだけ多くの人に来て貰おう」というねらいから、次のような改革を行いました。その一は、昨年までの年2回から、3回に回数を増やした。その二は、第3回目を弘学祭とのジョイント開催に。その三は、特別企画として、第2回に外部の有名講師による「小論文合格対策講座」の開催。その四は、他の新企画として、第2回に「弘学を語ろう!」、第3回に「卒業生

・小論文講座は役に立って良かった。少し疑問であったことがわかった。  
・弘学の看護についてよくわかったし、今日話した学生さんは本当に看護について勉強するのが楽しいというのがとても伝わった。  
・年間集計の結果、参加者数は大幅に増加し、目標が達成されました。教職員関係各位、学生スタッフの皆さんに心からお礼を申し上げます。

# 弓道部

英語 英米文学科三年 成田 早織



私達弓道部は、現在3年生を中心として活動しています。主に弘前市営弓道場で週一回、二回程度の練習と、月・水・金曜日の放課後を体育館での巻き藁練習(実際に的に向かって矢を射るのではなく、藁の的に向かって矢を射る練習方法)の時間として当て、活動しています。部員の自主性を尊重し、練習は強制参加ではなく部員一人ひとりが都合の良い時に活動するというのが部の方針です。部員の所属学部がバラバラな為、全員揃って練習をする機会を設けるのは困難な状態ですが、大会や審査などを控えている時には、全体練習の時間を確保する為に練習への参加を促したり、部員同士で練習時間の調整を行うようにしています。

また、昨年までは学内に道場がないので、市営道場県立武道館でのみ練習を行って来ました。しかし、指導時間の問題など様々な点で不便さを感じており、「道場は無理でも、せめて学内で空いた時間や放課後学内で練習を行えるようにしたい。」と考え、その石を事務の方々に伝えました。その結果、体育館のステージ場の一角を練習スペースとして許可して頂き、巻き藁での練習が可能になりました。この場を借りて竹内先生初め、お世話になった事務の皆さんに改めてお礼申し上げます。

最後に、弓道部は経験者未経験者問わず誰でも大歓迎です!無理なく活動出来るので気軽に始めてみませんか。

# 卒業生からのメッセージ

## 「大学生生活」をより豊かなものに

2005年3月卒

社会福祉学部社会福祉学科 石岡 由子



皆さんにとって「大学生生活」とは何でしょうか?それぞれ自分の将来を見つめる場、かけがえの無い友人と出会う場など、十人十色の大学生生活があると思います。社会に出て約3年。自分の「大学生生活」を改めて振り返ると、私にとって「大学生生活」とは「出会い」と「刺激」に溢れたか

けがえのない時間だったように思います。学内の活動だけに留まらず、ボランティアやバイトを通じてたくさんの方に出会い、互いに学び、そうした経験が今の私を支えてくれているように思います。現在はソーシャルワーカーとして病院に勤務しています。が、良いソーシャルワーカーになるために欠くことのできないものとして豊富な経験(ここでは人生においての意)と価値観が挙げられると思います。患者さんと接する時、話に共感す

- 2008 -

# 学内就職セミナー

弘前学院大学独自の企業説明会

2008年 1月11日(金)

午後1時~4時40分まで

場所 弘前学院大学 体育館

いながらにして企業を知るチャンス!!

就職課



小論文合格対策講座



模擬講義



卒業生からのお話



弘学を語ろう!